

第二回子育て応援フォーラム

新しい子ども・子育て政策をどうつくる？

～地方自治体からの意見、取り組みから展望する～



各自治体において次世代育成支援法に基づく後期行動計画が策定され、国においては、「子ども・子育てビジョン」が発表されたこの時期に、自治体の子育て政策に焦点を当てたフォーラムを開催いたします。

基本理念は、「社会全体で子育てを支える」ということで、「幼保一体化を含む新たな次世代育成支援のための包括的・一元的な制度の構築」が施策に盛り込まれました。しかしながら、具体的内容や財源のあり方については示されておらず、今後応援団としても、提言を続けていきたいと思っております。

そこで、子ども・子育て政策に本気で取り組んでおられる自治体の首長をお招きし、子育て政策の課題と今後の取り組みや展望について語っていただくとともに、現場で子育て支援に取り組んでいらっしゃるNPOの方々も交えて意見交換を行います。

今後の国、自治体の子ども・子育て政策等について、意見交換と情報共有を行う絶好の機会ですので、是非ご参加ください。

コーディネーター

棕野美智子さん 大分大学教授

2010年3月9日(火) 18:00～20:30

東京国際フォーラム D1 ホール

パネリスト

清原慶子さん 東京都 三鷹市長
林文字さん 神奈川県 横浜市長
本田敏秋さん 岩手県 遠野市長
奥山千鶴子さん NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長

福島少子化担当大臣にもお声がけしております。

日時：2010年3月9日(火)
18:00～20:30(開場17:45)
場所：東京国際フォーラム
D棟1階D1ホール
(千代田区丸の内3丁目5番1号)
TEL：03-5221-9000
対象：子育て支援NPO、自治体職員など
定員：100名
参加費：無料



お申し込み：<http://nippon-kosodate.jp/>

お問い合わせ先：にっぽん子育て応援団 info@nippon-kosodate.jp



にっぽん子育て応援団

5月29日 第三回子育て応援フォーラム
結成一周年記念シンポジウムを開催します！



清原慶子 三鷹市長よりメッセージ



市民との協働による「未来への投資」 ～子どもの育ちを地域で見守る三鷹市の取り組み～

三鷹市は、東京都のほぼ中央に位置する人口約 17 万 9 千人の市です。都心に近く、交通の利便性を生かしつつ、都立井の頭恩賜公園に代表される緑豊かな高環境と高福祉のまちづくりに努めています。

特に、子育てしやすいまちづくりを心がけ、「保育の質のガイドライン」を公立、私立、認証保育園等で共有しつつ、子ども中心の保育サービスを実施し、最近の 5 年間で約 500 名の定員拡大を図ってきました。

また、三鷹市では、「子ども家庭支援センター」を中心としたひろば事業の充実をはかるとともに、(株)まちづくり三鷹、地元の NPO 法人と協働で運用している子育て支援ポータルサイト「みたか子育てネット」で情報提供を行い、子育て中の現役ママと協働で「赤ちゃんといっしょ！三鷹おでかけマップ」を作成し、保育園と地域コミュニティの連携による「出前型親子ひろば事業」など、さまざまな子育て支援サービスを展開しています。

三鷹市では、これからも「いきいきと子どもが輝く教育・子育てのまちづくり」の実現に向けて、子育て応援団の取り組みを進めてまいります。

林 文子 横浜市長よりメッセージ

367 万人都市・横浜で、現場目線とぬくもりを大切に、「安心して子育てできるまち」を目指します。

横浜市の子育て支援策は、保育サービスの充実や親子の居場所づくり、幼児教育、母子保健、障害児支援、児童虐待防止、さらには育児と仕事の両立支援としてのワーク・ライフ・バランス推進など多岐にわたっています。

その中でも喫緊の課題である「保育所待機児童の解消」と「産科・小児医療、救急医療体制の充実」の 2 つのテーマについて、市長就任直後にプロジェクトを立ち上げ、現場感覚を重視した議論を重ねています。

社会的な機運の醸成も大切です。横浜市では、子育て家庭の皆さんが外出した際に、授乳室やおむつ替えスペースの提供、また様々な配慮やサービスを受けられるお店や施設を増やす子育て家庭応援事業「ハマハグ」を展開するなど、「まち全体で子育てを見守る」文化づくりに取り組んでいます。

横浜の強みは、多様で豊富な人材と活発な市民活動、多彩な企業活動の蓄積があることです。横浜に愛着を持って活動する皆さんの存在こそが、夢と希望にあふれる未来の横浜を築く原動力です。子育て支援は、行政だけで行うものではありません。横浜の大きな「市民力」を活かし、市民の皆様、NPO や企業の皆様と相互の連携を密にしながら、取組の輪を広げていきたいと思っております。



本田敏秋 遠野市長よりメッセージ



「わらすっこ」を想う、遠野スタイルの子育て支援

遠野市は岩手県を縦断する北上山地の中央部に位置する人口 3 万 1 千人の小規模な自治体で、「むがーす、むがす、あつたずもな」で語られる遠野物語は、遠野盆地の豊かな自然と人々のふれあいの中で今も息づいています。

市は、平成 19 年度に策定した「遠野わらすっこプラン」に基づいて様々な施策を講じています。その中でも、妊産婦がモバイル遠隔健診や気軽に相談できるよう設置された遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」は、助産師を中心として元気いっぱい「わらすっこ」の歓声と、お母さんのやさしい笑顔が集うヒューマンな場として活用されています。

むがーす、むがすから受け継がれてきた「わらすっこ」を想う温かい気持ち。それがこれからも伝承されるように、行政と市民が力を合わせ「子育てするなら遠野市！」といわれるまちづくりを築き上げていくこと、それこそが遠野スタイルの子育て支援です。